福岡市立 福岡女子高等学校 友修会『愛有』記念号

100 Years ANNIVERSARY FUKUOKA GIRLS' HIGH SCHOOL 1925 - 2025

校歌

古城のほとり　雲も輝やく
平和の杜よ　平和の杜よ
さわやかに　朝日照らさん
いらかつらなり　乙女らつどう
あゝ　清き歌声
我らをみな　我らをみなよ
福岡女子高校

潮のごとく　かおる玄海
歴史は移れ　歴史は移れ
限りなき　未来たたえん
心やさしく　みがかん玉を
あゝ　清き　この窓
我ら　をみな　我らをみなよ
福岡女子高校

茜に映ゆる　広き筑紫野
脊振の峰よ　脊振の峰よ
新しき　叡知うたわん
自由の園に　女性の道を
あゝ　清くすすまん
我ら　をみな　我らをみなよ
福岡女子高校

祝 創立100周年

福岡市立福岡女子高等学校
友修会総会
2025年（令和７年）６月22日　ホテルオークラ福岡
一般／7,000円　2022-2025年卒／2,000円

福岡女子高等学校 校歌 ◀スマホで QR コードを読み込めば校歌が流れます♪

母校の発展を祈って ～愛有が生まれるまで～

顧問　太刀川 春美

愛有創刊号

昭和23年に友修会を設立し昭和41年から毎年総会を開催してきました。平成14年には卒業生も17,000人を数えるようになりました。同窓会として、一人一人の想いと行動の積み重ねで何かを創造していけるのではないかと考え、会員の想いを繋ぐ一手として、「広報誌」を発行する運びとなりました。

同じ学び舎で過ごした諸先輩や、ずっと続くであろう後輩の方々との姉妹のような慈しみ合う心や愛情がいつまでも続きますようにとの想いを込め「愛有（あゆう）」と名付けました。

今後も「愛有」が会員の皆様の絆を育むことが出来ますように心より祈念いたします。

黒い瞳の輝きが　～迷える子羊どこへゆく～

元事務長　青木　晃

私が女子高、当時の第一高等女学校に就任したのは昭和22年の６月、場所は博多区の奈良屋小学校の校舎の一部であった。

その１年あまり前の冬の夜中、西公園に住んでいた私は消防車のけたたましいサイレンと、すぐ左前方の黒煙に驚き、一面草原の平和台を走って炎上する校舎を見下ろした。

これが私と第一高等女学校の校舎との、初めての奇妙な出会いであった。その翌年から20年、その学校に勤めることになろうとは、神ならぬ身の知る由もなかった。

その後、西日本新聞に「迷える子羊どこへ行く」という見出しが私の目を捉えた。読むとこの学校のこと。創立以来、校舎は天神の福岡女子高等小学校に間借り、昭和になって長浜の実業青年学校（現舞鶴小学校）に間借、16年にやっと赤坂に自分の校舎を持つことが出来たものの、太平洋戦争のため軍隊に接収されて拓殖専門学校（現千代中学校）に間借、終戦で復帰した赤坂の校舎も安住の地でなく、わずか１ヵ月後の２月15日の夜、火災で全焼、またまた奈良屋小学校に間借……正しく「迷える子羊」であった。

「早く本来の校舎に戻りたい」　それは関係者全ての願いで、父兄会、同窓会、学校が一体となって「復興建設委員会」が発足し、市・県・文部省への陳情が繰り返された。取り敢えず「４教室建設、被服室と調理室は学校が建設する」方針が打ち出された。これはPTA総会でも承認され、特別教室建設資金として、生徒１人当たり1,000円の寄付となった。

終戦の混乱期、生活苦、誰もが食べることで精一杯の時代。特に食糧難、米も野菜も魚も、口に入るものは全て配給で、何一つ自由に手に入らない。今の飽食の時代には考えられない状況であった。その中で父兄は歯を食いしばって子供を就学させていた。当時、一教師であった私の初任給は500円、いかにも1,000円は大金であった。

同窓会役員の方々も約3,000人の卒業生や、その他への募金に奔走した。学校でも夏休みに劇場を借り、役者を呼んで演劇を開いて資金を作った。生徒たちは焼跡のガラスの破片を材料に、絵を描いて風鈴を作り、炎熱の中リヤカーを引いて繁華街で売った り、学校で仕入れた生活物資を近隣に売って資金を集めた。関係者の苦労と努力が実り、その秋、赤坂の地に４教室建築の工事が進み、一同歓喜に包まれた。

私は昭和22年から42年まで勤めたが、それは校舎建築に追い回された20年であった。

今、海に面した新校舎の前に立ってみると、かつて「迷える子羊」と言われてから約50年、その歳月の「重み」を、私はしっかりと身に感じた。私がはじめて出会った校舎の炎を、この様に変身させたのは、いったい何なのか。

奈良屋の仮校舎で「校舎復興」へ父兄も卒業生も職員も生徒も一体となって力を結集し金を集めた。生徒たちは自分たちの発想で、自分たちの手で風鈴作りに取り組み、１つの目的に皆で心を合わせ、お互い教えあい、助け合い励ましあう姿は、実に爽快で尊いものであった。その時私は、にこやかに談笑する少女たちの、純な黒い瞳の輝きを見た。今日の繁栄は、あの時代の少女たちが作り上げたものだと私は心底から思った。

今の生徒たちは実に幸せだ。立派な校舎で、豊富な教材で学べるのである。その幸せは、かつて幾多の先輩たちが、長い間不自由を忍び、悲しみや苦しみに耐えぬいて、営々としてつみかさねきた努力の上に築かれたものであることを忘れないでほしい。

新しい校舎で、立派な新しい校風を創り上げ、次の後輩たちに引き継がれ、さらに代々、時代とともに一層磨き上げられていくことに、私は大きな期待を抱いている。

（70周年記念誌より再録）

福女雑感

元食物調理科教諭　友池 祐子

福岡女子高校百周年は喜びと共に感無量です。私は福女も安定期に入った赤坂校舎に昭和四十一年に入学しました。現在の赤坂小学校です。

学校は街中ではありますが、緑に囲まれ、こじんまりとした運動場を囲むように４階建ての鉄筋校舎と木造の校舎、それに講堂兼体育館が建っていました。

放課後はその小さな運動場で競い合うように部活動の練習の声が学校中に響いていました。明るい自由な校風のもとでのびのびと未来を夢見る「をみな」の学び舎でした。

縁あってその後教員として職に就き、風通しの良い人間関係の中で、よく議論し学校創りに教員が情熱を燃やしている学校でした。

それは戦後、学校再建に奔走され学校を守り抜かれた校長先生をはじめとする先人の存在から始まっているのかもしれません。

福女のイメージカラーは「えんじ色」と聞いた事がありますが、私は「黄色」を思い描きます。愛宕浜校舎の玄関前に黄色い花をつける２本のミモザの木が植えられています。同窓会より贈られたZ女像「春声」と共に早春を告げ「感謝」を伝える黄色い花として親しまれています。「ターシャの庭」のような緑に囲まれた環境で学んでほしいと思う教員の想いの表れです。

昨年、学科の同窓会に出席しました。一気に学生時代の思い出で盛り上がったのは言うまでもありませんが、その時に主賓の先生が詠まれた句が印象的でした。

「秋晴れや還暦と米寿祝い合う」

何年経っても同じ想いを共有できる喜びを感じると共に「教員はいくつになってもご褒美がもらえる職業よ」と言われた先輩の言葉を思いだしました。まさに私にとりご褒美の一言です。

二年後には福女も共学化に伴い新しい船出を迎えます。一抹の寂しさを感じますが、建学の精神や不変の一筋も生かしつつ、さらなる飛躍を祈念致します。多謝！！

創立100年　更なる会員の絆を！

7代会長　新山 鈴子

全国の友修会会員の皆様におかれましては、お健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。

1925年に創立された本校は、大正・昭和・平成・令和の時を経て、今年100周年を迎えます。また、友修会は、今年77年目の喜寿を迎えます。これもひとえに会員の皆様のご支援とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

昨夏は異常な猛暑で、体に堪える日々、地震の被災地を襲った集中豪雨、冬にはインフルエンザが猛威を振るいました。地球は100年前と比べるとずいぶん変化しています。

この100年、戦争や大きな自然災害、コロナ禍など、世の中が激しく変化する中で、母校も9度の校舎移転、火災に伴う学校存続の危機など、様々な困難に遭いました。しかし、歴代の会長や役員たちは、学校や保護者の皆様と共に、母校愛と、何事にも屈しない強い心で、乗り越えてこられました。

長い間、友修会に関わってこられた石田顧問をはじめとする諸先輩方のお話からも、それをうかがい知ることができます。また、この「愛有」は全国各地の会員の学校への思いと、諸先輩の方々から続く姉妹のような慈しみあう心や、愛がいつまでも続きますようとの願いを込めて、太刀川顧問が命名されたものです。

これから先も、この絆はずっと続いていく事でしょう。

今、学校を訪問すると、気持ちの良い挨拶が返ってきます。福女の生徒として自覚を持ち成長している姿があります。そんな姿を見ていると、校長先生をはじめとする先生方の温かい愛情あるご指導に、感謝の気持ちでいっぱいになります。近年、学科や部活動においても、優秀な成績を収めているのはその表れであると思います。

さて100周年を迎えた本校ですが、令和９年度の入学生から男女共学となることが正式に発表されました。

今後、学校名も含めて変わっていきますが、今まで培われてきた「福女生」としての魂と友修会の絆は変わることはありません。今までの福女に新たに男子生徒を迎え入れ、相乗効果でより良い学校になっていくことを願っています。今年の干支「乙巳（きのとみ）」は、これまでの努力や準備が実を結ぶ年だと言われているそうです。

友修会会員の皆様におかれましても、巳（実）を結ぶ年となりますようお祈り申し上げます。

役員一同、福女の100年の歴史と伝統を大切に紡ぎながら、新たな未来へ一歩一歩進めてまいりたいと思っております。

輝かしい伝統と校風にささえられて

校長　大洲 隆一郎

友修会の皆様におかれましては、日頃より母校ならびに後輩に対し、心強いご支援をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。また、皆様の母校が創立100周年を迎えられますこと、心よりお慶び申し上げます。

本校は、大正14年５月15日に裁縫・家事の実技講練に重点を置いた、福岡市立第一女学校として開校し、まもなく創立100周年という大きな節目を迎えます。創立以来、時代の変化に対応しつつ、福岡市における家庭科教育を牽引し、「自立」「共生」「創造」の校訓のもと、歴史と伝統を積み重ねるとともに、高等学校における女子教育の普及と発展に貢献し、２万４千人あまりの卒業生の女性の道を切り拓いてきたという輝かしい実績を誇っております。

本校が歩んできた100年という長い道のりを振り返ると、戦災や不慮の火災、それに伴う存続の危機など、数多くの困難もありました。そのたびに、その当時の教職員、PTA、生徒、同窓会の皆様が、本校への深い愛情とともに一丸となって存続、発展に向けたご努力を積み重ねてきていただいたおかげをもちまして、現在の輝かしい伝統と校風が築き上げられてきました。

本校を愛し、大切に育ててきてくださったすべての皆様に心からの敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

さて、現在の本校は100周年を機に、さらなる発展をめざして新たな一歩を踏み出そうとしております。これまでに培われてきた教育理念と家庭科教育や国際教育、普通科教育に関する知識やノウハウ、教育的資源を基盤として、令和９年度からの総合学科への学科改編、男子生徒受入れに向けていくつかのチャレンジを繰り広げています。

能古プロジェクトと称して能古島と連携協力を深めた学習を開始したり、生徒会が主体となって学校行事の企画や運営に主体的に取り組み、スポーツフェスティバルの実施や文化祭の活性化などを図ったり、九州大学とのDXに関する共同研究や韓国東西大学校との連携協定締結による短期留学・国際交流など、新しいことに挑んでいこうとする雰囲気に満ちあふれてきており、その成果も進路実績や部活動の大会等での結果として、顕著にあらわれてきているところです。

結びに、来る11月３日、アクロス福岡シンフォニーホールで創立100周年記念式典を挙行いたします。詳細については夏頃にご案内することになりますが、友修会会員の皆様のお席もできるかぎりご用意する予定です。ぜひ100周年に華を添えていただくとともに、母校の「現在」を感じつつ、うら若き高校時代に思いを馳せていただけると幸甚に存ります。引き続き、温かいご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「愛有」100周年記念特別号に寄せて

PTA会長　辻　隆志

福岡市立福岡女子高等学校の創立100周年及び友修会会報「愛有」特別号の発行、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

またPTA会長として言祝ぐことができますことを、新山友修会会長に深く感謝申し上げます。

令和６年４月に会長に就任致しました折に、福女の格式高い立派な講堂で開催されたPTAの総会では、中学校の体育館とは雰囲気が全く異なり、手に汗握りとても緊張した記憶があります。更に、来賓としてお招き頂いた同年６月のホテルオークラ福岡での友修会総会・懇親会では、出席されている卒業生は全員女性。女子高の同窓会なので当たり前ですが、会場の扉を開けた瞬間の圧倒的パワーと優雅さを感じ、ここでも緊張したことを今でも覚えております。しかし総会後の懇親会では、沢山の方がテーブルまで来て温かい言葉を掛けて頂きました。また同じテーブルの石田顧問からも学校や友修会の今後のことを等を話すことができ、その見識を伝授頂いたことは今後のPTA活動にとても貴重な指針となりました。

またその日の和やかで、穏やかで、品のある懇親会は、私にはあまり経験のないお酒の席でした。

娘が予定通り令和９年３月に卒業すれば、翌４月の入学式から、福女は男女共学になります。学校名が「福岡市立高校」になって欲しいという私見はさておき、学科や校歌・校章、そして制服がどのように変わるのか、福女との関わりがなくなっても温かく見守り関心を持ち続けたいと思います。共学化の現場で実際携わる教職員及び関係者の方々は大変なことばかりだと思いますが、赤坂、姪浜、愛宕浜と学校自体が移転してきた福女ですから、時代の変化は受け入れられるものとお察し致します。

創立100周年を迎えた後も脈々と受け継がれる同窓会の伝統を重んじ、友修会と同窓生の皆様の今後益々の発展とご活躍を祈念申し上げます。

学校の沿革

カリオンの鐘の音
ともに　未来へ

セミナーハウス
同窓会館の場所・所有権・所有地等、歴代会長の尽力により、セミナーハウス内に事務局を取得。様々な同窓会に関する業務に携わる

創共自 造生立 教訓

2011
文部科学大臣賞を受賞
キャリア教育の充実・推進の取り組みが評価される

2013
国土交通大臣賞を受賞
地域の方々とともに取り組んだ清掃活動や花壇の整備などの活動が認められる

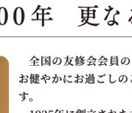
1995
愛宕浜新校舎完成
校地70,000㎡
社会の変化に対応した学校作りを目指して、新学科・新カリキュラムで新たなスタートを切る

1974
姪浜新校舎完成
付属姪浜幼稚園の設立
校地　46,640㎡
1973 中東戦争、オイルショックの中、姪浜校舎の建築　建築予算上の問題が生じたが1973年12月工事完了

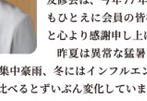
1959 -1974
赤坂校舎　鉄筋に建替え

姪浜校舎　HR棟
中庭に藤棚、HR棟南側に花壇を造営
正門から西に向かって30mほど両側に花梨の並木が続いていた
敷地の西半分は広々とした正方形で運動場があり北縁の中央に1階平屋建の体育館がありHR棟と長い廊下でつながっていた
運動場の南東の隅に付属幼稚園があり保育料の生徒たちが実習で通った
付属幼稚園の北側、芸術棟の西側25m8コースのプールがあった

1951
福岡市立福岡女子高等学校へ改称
1951　PTA費で図書室建築
1953　附属赤坂幼稚園を設立
1955　PTA寄付で講堂兼体育館建設



1946
焼け残った同窓会館
不慮の火災で校舎焼失
市の財政難を理由に廃校案が出される
建築費用負担を条件として、梅居会長・清原校長が金策に走り、会長が自宅を担保に借入れをして廃校回避
（6面、青木事務長の記事をお読みください）



1948 -1959
赤坂校舎時代

1948
馬小屋教室
福岡市立第一女子高等学校開校
西部軍時代の馬小屋も教室とし授業開始

1942
赤坂校舎
福岡市立第一高等女学校設立認可
高等女子校昇格
卒業生の寄付金により同窓会館建築

1925
天神校舎
福岡市立第一女学校開校
婦人の育成を目的とし市民の強い要望により本校が誕生した

1928
専攻科を設置
小学校裁縫科教員免許状下付

1946-1947
奈良屋小学校仮校舎
不審火により校舎を焼失
写真の背後　校舎２階から小学生が顔を覗かせている
本校舎に復帰したが隣接する旧西部軍司令部はGHQ宿舎とされ戦後の混乱で治安の悪化が懸念された
時期尚早と陳情したが受け入れられず不安な状況での復帰となった

年表

1925（大正14年）実業学校令による福岡市立第一女学校設立認可
福岡市小鳥馬馬場（豊国神社北隣）初代校長 谷 基蔵 就任
1926（大正15年）第２代校長 有田 尊太郎 就任
1928（昭和３年）専攻科設置
1931（昭和６年）第３代校長 井下 次郎 就任
1939（昭和14年）第４代校長 篠原 金門 就任
1940（昭和15年）福岡長浜町の市立高等実業青年学校の一部を仮校舎として移転
1941（昭和16年）第５代校長 大場 照二 就任
福岡市大名町２３３の６（現 赤坂小学校）に新舎落成移転
1942（昭和17年）福岡市立第一高等女学校（福岡市立第一女学校 同年３月31日限り廃校）
1944（昭和19年）校舎は西部軍司令部に収容されたため、福岡市千代町の市立拓殖専門学校（現千代代中学校）を仮校舎として移転
1945（昭和20年）第６代校長 小山 直之 就任
1946（昭和21年）大名町の本校舎に復帰
1ヶ月後、火災により校舎焼失
奈良屋小学校へ移転
1947（昭和22年）第７代校長 清原 峰規 就任
1948（昭和23年）火災復旧第一次工事竣工
大字町（赤坂校舎）に復帰
新学制により福岡市立第一女子高等学校となる（定員600名）
友修会初代会長　梅居　タミ　就任
1955（昭和30年）校章制定
1955（昭和26年）学校名称を福岡市立福岡女子高等学校と改称する
1956（昭和31年）創立30周年記念式典を挙行
1960（昭和35年）第８代校長 吉原 誠 就任
1962（昭和37年）友修会第３代会長 林 ユキエ 就任
1963（昭和38年）第９代校長 大庭 武郎 就任
1965（昭和40年）第10代校長 祝部 喜代 就任
創立40周年記念式典を挙行
1967（昭和42年）第11代校長 園井 浩雄 就任
1969（昭和44年）友修会総会を開催（新天町平和堂）
1971（昭和46年）第12代校長 大部 勝利 就任
1973（昭和48年）第13代校長 山野 恒美 就任
1974（昭和49年）福岡市西区姪浜町９６１－１に新校舎落成移転
1975（昭和50年）第14代校長 永野 拓道 就任
創立50周年記念式典を挙行
1977（昭和52年）第15代校長 三野 章 就任
1980（昭和55年）第16代校長 木村 政明 就任
1982（昭和57年）第17代校長 玉井 孝 就任
1985（昭和60年）第18代校長 納辺 行敏 就任
創立60周年記念式典を挙行
1987（昭和62年）創立50周年記念として校旗を寄贈
1988（昭和63年）福岡市立福岡女子高等学校付属姪浜幼稚園
創立10周年記念式を挙行
1991（平成３年）第20代校長 渡邊 茂人 就任
市立高校検討会議　女子校の在り方についての報告
1993（平成５年）第21代校長 石丸 徹 就任
本年度入学生より新制服
1995（平成７年）福岡市西区愛宕浜３－１－２に新校舎落成移転
創立70周年記念式典を挙行
1996（平成８年）創立75周年を記念して友修会より ブロンズ像「春声」寄贈
1997（平成９年）第22代校長 松井 知 就任
友修会第３代会長 太刀川 春美 就任
1999（平成11年）第23代校長 古賀 哲昇 就任
2002（平成14年）友修会 会報「愛有」創刊
2004（平成16年）第24代校長 境 敏光 就任
2005（平成17年）第25代校長 清水 昭男 就任
創立80周年記念式典を挙行
友修会・PTAOB会にて韓国釜山市東萊女子高校を訪問
2006（平成18年）第26代校長 本多 常忠 就任
2011（平成23年）第27代校長 古川 彰 就任
2013（平成25年）第28代校長 近藤 敦原 就任
2015（平成27年）創立90周年記念式典を挙行
創立90周年記念として友修会より「大正・昭和初期制服」寄贈
2016（平成28年）第29代校長 谷本 昇 就任
2017（平成29年）第30代校長 牧島 公人 就任
友修会第６代会長 江藤 淑子 就任
2021（令和３年）第31代校長 山田 耕史 就任
2022（令和４年）第32代校長 大洲 隆一郎 就任
2023（令和５年）友修会第７代会長 新山 鈴子 就任

七宝焼 校章
所作服に合わせて

福岡市立福岡女子高等学校
校章

福岡市立第一高等女学校
校章

福岡市立第一女学校
校章

友修会の沿革

7代会長
新山 鈴子

6代会長
江藤 淑子

2015
90周年総会・懇親会
300人参加で開催

2020
コロナ禍の入会式
２年間、総会中止により書面決議

2002
友修会 会報「愛有」創刊

5代会長
太刀川 春美

1996
70周年記念ブロンズ像贈呈

4代会長
石田 敏江

1988 -
東萊学園との国際交流

1995
セミナーハウス

1985
60周年記念 校旗

3代会長
林 ユキエ

1982
セミナーハウス

2代会長
一瀬 ユキ

初代会長
梅居 タミ

〈過学風景〉

当時の校旗

1944
学徒動員
戦時下の学生たち・
勤労奉仕の日々

第１期卒業生

2023
地下鉄七隈線
（天神南～博多間開通）

2020
新型コロナウイルス感染症拡大

2005
地下鉄七隈線開業
福岡県西方沖地震

1995
ユニバーシアード

1989
アジア太平洋博覧会
「よかトピア」

1983
地下鉄開通
（天神～姪浜間）

1980
福岡都市
高速道路開通

1975
山陽新幹線
博多開通

1973
オイルショック
中東戦争

1951
福岡空港の民間空港化

1945
福岡大空襲

1941
太平洋戦争
国内戦時体制下

1940
日中戦争激化